

## 五種混合（四種混合+ヒブ）ワクチン予防接種を受けるにあたっての説明

### ● ヒブ（Hib）感染症とは

ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型という細菌の略語ですが、冬に流行する季節性インフルエンザとは、全く別のものです。ヒブ細菌が咳やくしゃみ、会話等の飛沫を介して感染し、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの感染症のほか、深刻な細菌性髄膜炎、敗血症、肺炎などを起こす場合があります。なかでも髄膜（脳や脊髄を覆う膜）に感染するヒブ髄膜炎は最も頻度が高く、予後が悪い病気です。特に生後4か月から1歳になるまではかかりやすいので注意が必要です。

### ● 百日せきとは

百日せき菌の飛沫感染でおこります。かぜのような症状で始まり、せきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきで呼吸ができず、けいれんがおきることがあります。肺炎や脳症などの重い合併症がおきると命を落とすこともあります。

### ● ジフテリアとは

ジフテリア菌の飛沫感染でおこります。感染は主にのどで、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。また、心筋障がいや神経麻痺をおこすことがありますので、注意が必要です。

### ● 破傷風とは

ヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる破傷風菌が傷口から体内に入って感染します。口が開かなくなるなどの症状から、やがて全身のけいれんをおこすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。

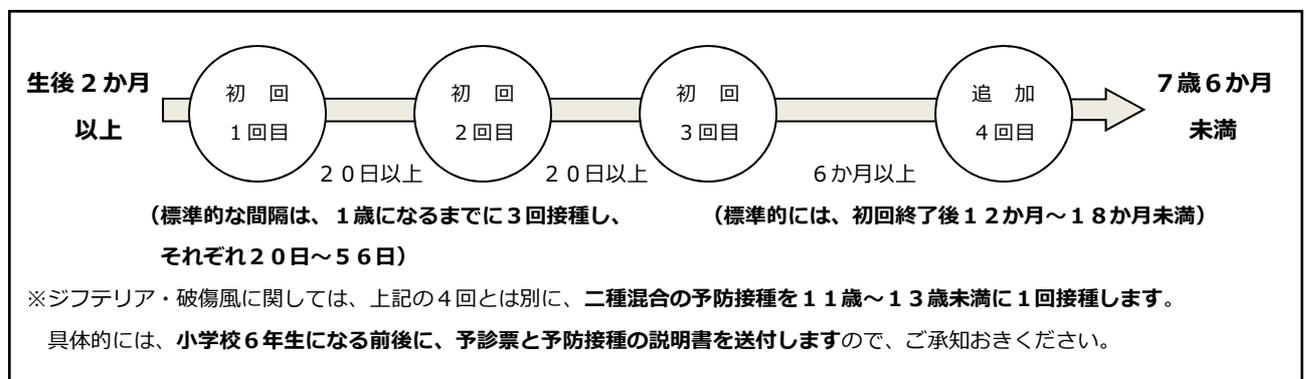
### ● ポリオとは

ポリオ（急性灰白髄炎）は「小児まひ」と呼ばれ、日本では1960年代前半までは流行を繰り返していました。ポリオウイルスに感染しても、ほとんどの場合は症状が出ず、知らない間に免疫ができます。しかし、症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染が広まり、マヒをおこすことがあります。一部の人には永久にマヒが残り、マヒ症状が進行し、呼吸困難により死亡することもあります。

### ● 対象年齢：生後2か月～7歳6か月未満

（標準的な初回接種（1～3回目）の完了は、生後3か月～1歳未満）

### ● 接種スケジュール：計4回



### ● 主な副反応

注射部位の紅斑（赤くなる）、硬結（しこり）、腫脹（はれ）などの局所反応が主です。なお、硬結（しこり）は少しずつ小さくなりますが、数か月残ることがあります。

まれにおこる重大な副反応としては、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれん等がみられます。

・お問い合わせ先

中央市役所 健康増進課 予防接種担当 電話番号 274-8542